



カタツムリの目玉は、よく見えるの

光にびん感な目

カタツムリの目玉は、頭から長くとび出した、大きい触角の先にあります。カタツムリの目は、ごく、近くのものしか見えませんし、色の区別もできません。そのかわり、光にはびん感で、明るい所と、暗い所を見分けます。カタツムリは、もともと、夜活動することが多い生き物ですから、目は、このていどでよいのでしょう。

カタツムリにとっては、目より大きい触角が大切なのです。大触角をふりふり、まわりに障害物があるかどうか、安全を確かめながら、カタツムリは行動しています。この2本ある大触角の、一方の先が何かで切り取られると、カタツムリは、切られた触角の方向に曲がって進み、うまく前へ進めません。切られた触角は、100日くらいで、また、のびてきて、目も、もとどおりに再生してきます。

角でにおいや、味を知る

カタツムリの頭の下の方にある、別の小さい2本の触角は、えさのありかを探す、大切な役目をしています。ちょっとはなれた所に、キャベツなど、えさの野菜をおいてやると、まっすぐ野菜の方へ近よっていきます。真っ暗な中でも同じです。カタツムリは、触角で、えさのにおいとらえて、えさのありかを見つけるのです。この小さい触角を2本とも切られてしまうと、カタツムリは、えさが近くにあって、近づいていきません。えさに、気づかないようです。（監修・中山 周平）

